

## クラブ「三線」 全4回終了

金城佳隆氏を講師に、11月13日にスタートしたクラブ三線は、3月19日(木)で全4回を終了しました。島尻教育研究所創立20周年を記念し、購入した新調の三線を手に、集中して練習に打ち込む教育研究員の皆さん。多くの方が初めての三線と工工四に戸惑いながらも講師の金城先生のわかりやすく、ウチナーぐちも交えた熱心な指導のおかげで、回を増す毎に会議室に流れる三線の音は、「安波節」となりました。

## 【クラブ 三線の概要】

- 第1回 「沖縄の文化」** 11月13日  
 (1) 沖縄の文化にふれることの大切さ  
 (2) 地域の文化に触れる機会も大事  
 (3) 沖縄の方言について→「ことばは文化」  
 (4) 沖縄の文化(琉歌・おもろさうし・組踊り等)
- 第2回 「安波節」** 12月11日  
 (1) 三線の各部の名称 (2) 「ウマ」の立て方  
 (3) 調弦の種類 (4) 工工四の読み方と指の位置  
 (5) 「安波節」1番まで
- 第3回 「安波節」** 1月15日  
 (1) 三線の正しい持ち方 (2) 「安波節」3番まで
- 第4回 「安波節」** 3月19日  
 ○「安波節」仕上げ



写真1 クラブ三線の様子



写真2 講師の金城佳隆先生と共に

## 【教育研究員の感想】(お礼のことばから)

金城佳隆先生には、これまで気にはなりながらもなかなか取り組むことが出来なかった三線を初めて教えていただき、感謝しています。「安波節」は聞いたことがある曲でしたので、それを自分で弾いて曲として出来上がっていく過程がとても楽しく、クラブの時間がとても楽しみでした。また、三線だけではなく、沖縄の方言や文化に関するお話もして下さり勉強になりました。家庭に使わずにおいてある三線がありますので絃を張り替え、先生からいただいた工工四を活用して今後も三線に触れていきたいなと思います。ご指導ありがとうございました。(稲嶺あゆみ)

三線を習ってみたいと思いながらもその機会が今までなかったので、クラブ三線の時間を毎回楽しみにしていました。三線は0からのスタートだったので、歴史や三線の各部の名称、持ち方、工工四など、初めて習うことばかりでした。金城先生の手元を見ながら弾こうとしましたが、実際に見ながら演奏するのは難しく、「安波節」も工工四を見ながらまだゆっくりしか演奏ができません。でも何度も練習していくうちに、初めの頃よりは少しずつリズムよく弾けるようになってきたと思います。これからも三線を弾く機会を見つけ、「安波節」だけでなく、他の曲も弾けるようになることが今後の目標です。ご指導ありがとうございました。(安座名有里)

三線は興味があったので、今回、金城佳隆先生の指導の下、三線を学ぶ時間が持てたことは嬉しかったです。初めての三線演奏は、見よう見まねで手を動かしました。入門曲だという「安波節」も、耳で聞いてリズムを体に取り入れれないと感じました。また、琉歌の八・八・八・六の独特の歌い回しも慣れが必要だと感じました。金城先生は、曲のリズムや歌詞を感じ取らせるように繰り返し練習をさせて下さいました。以前に比べて、指も口も動くようになったのが成長したところです。これも、金城先生の指導のおかげです。ありがとうございました。最後に、ブラジル移民の親戚の歌がとても心に残っています。作詞・作曲し思いを伝えることができる楽しさが三線にはあることを教えていただきました。今後、金城先生の歌が出るのを楽しみにしています。(勢理客貴之)

三線は以前に教えて貰ったことがありましたが、大分間が空き、忘れていたところ、クラブ三線で教わる機会をいただき嬉しかったです。「安波節」を金城先生の手元を見たり、工工四を見たりしながら弾くのですが、以前はできなかった歌に合わせて弾くことができたのもよかったです。みんなで音が揃った時は気持ちよく、楽しい時間を過ごすことができました。これからも沖縄の伝統芸能の一つである三線を弾けるように練習をしてみたいと思います。金城佳隆先生、わざわざ研究所に来て下さり、いつも明るく、丁寧に教えて頂きありがとうございました。(比嘉俊雄)

音楽が大好きなので、三線を教えて頂ける機会があったことはとても嬉しかったです。少しばかり習っていたこともあって、安波節は馴染みがありました。女性の声の高さでは声が出にくい所もありましたが、三線にのせて歌うといつもすっきりとした気分になりました。クラブ三線では、沖縄方言や琉球芸能にまつわるお話を聞くことができ有意義でした。三線をもっと味わうためには、うちなーぐちや沖縄の芸能について、もっと理解する必要があると思いました。機会があれば、三線はぜひ生活に取り入れたい楽器です。丁寧にご指導ありがとうございました。(古謝栄子)